

# アメリカ人類遺伝学会に参加 カナダバンクーバー 2016.10/17-10/24

健康科学コース 4年 仲谷健

## 渡航先での活動内容

目的としては、バンクーバーで開催されるアメリカ人類遺伝学会 (ASHG 2016 Annual Meeting) に参加し、人類遺伝学に関する最新の話題を幅広く学ぶ（特に卒業論文のテーマである自己免疫疾患や疾患感受性遺伝子の機能解析について）こと。さらに、ポスドク・大学院生・学部学生等の若手研究者を対象とするプログラムにも参加し、海外の若い研究者たちと議論すること。



会場の Vancouver convention center



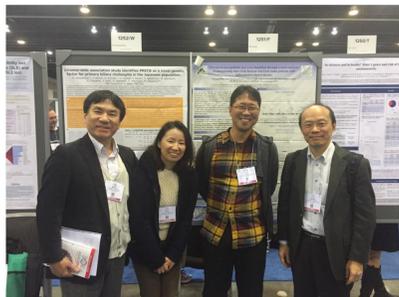
ポスターセッションの様子

具体的な活動内容としては、各演題の聴講と、三日間にわたり開催された若手研究者のためのワークショップ (Trainee Professional Development Program) への参加である。

## 目的を達成できたか

第一の目的は研究を続けるうえでのモチベーションを上げることであったが、初めて大規模で国際的な学会に参加して非常に刺激を受けた。特に英語力はどのような進路にせよ非常に大切だと感じる事ができたので、これから特に重点的に勉強しようと思った。

第二の目的は卒論のテーマに関することを学ぶことであった。特に自己免疫疾患や疾患感受性遺伝子の機能解析について学ぶつもりであったが、なかなか思うようにはいかなかった。ひとつには人類遺伝学は非常に広範な分野であり、今回の学会もかなり大きい規模のものであったことから、自分のテーマに当てはまるものを見つけるのに苦労したこと、そしてテーマに沿うものでも内容が非常に高度であり、自分の英語力が未熟なこともあって内容を理解することがあまりできなかったことが原因である。ただポスターセッションでは共同研究者の皆さんのお話を伺える機会があり、そこでは卒論のテーマについて理解を深められたと思う。



共同研究の先生方

第三の目的は若手研究者のためのワークショップに参加し議論をすることであったが、ここでも英語の会話力がネックとなり、議論に積極的に参加できなかった。ただ、海外の同じような年代の人たちがどのようなことを普段気にかけて進路を考えているのかがおぼろげながらも分かったのでその点についての収穫はあった。

## グローバルな視点とは何か

少なからず学問の世界には国や地域間の競争があると感じた。人類遺伝学はやはり日本を含めたアジアよりも欧米のほうが一歩先に行っているのかなという雰囲気だった。そのような場において客観的に日本を見ることで、日本の現状や今抱えている問題点を考えることがグローバルな視点だと思った。グローバルとは単に世界を意識するだけでなく、そこから自らのいる立場（日本人なら日本といったふうに）をとらえて行動することだと思った。



会場につるされていた地球儀

## 将来の進路決定へどう影響したか

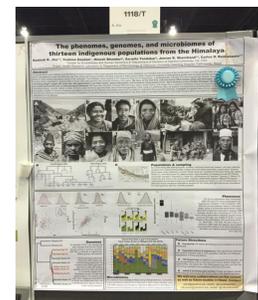
人類遺伝学は非常に分野の幅が広く、いろいろな進路が考えられると改めて感じた。特にワークショップは進路に関するもので、学問の世界に進むか産業の分野に進むか、同年代の人も含めて様々な人の意見を聞くことができたので非常に参考になった。またワークショップでは人類遺伝以外の分野からこの分野に参入してきたパネリストのお話も伺えて、あまり最初からがちがちに進路を決めるよりは、興味が変わる可能性も考えて柔軟に対応できる能力も必要なのではないかとも思った。どちらの進路を選ぶにせよ世界を視野に入れるのならば英語は必須だと思った。

## 後輩へのアドバイス

若いうちに海外を経験しておくのは非常に良いことだと思っても、なかなか経済的に厳しいとっていたので、このような海外研修支援の制度があることは大きなチャンスだったと思う。他学部他学科ではあまり聞かない制度なので、この機会を逃さずぜひチャレンジしてほしいと思う。

## 目的以外に学んだ点、反省点

卒論以外のテーマについても、自分が興味のあるものを色々見てまわった。身長に関するもの、腸内細菌にかかわるもの、また遺伝学の教育について、などは興味深かった。ポスター展示においては海外の研究者のお話を直接うかがえる機会もあり、とても刺激になった。また人類遺伝学教室と関係の深い研究者の方々とお話する機会もあり、自分の視野を広げるきっかけにもなった。



ヒマラヤの人の腸内細菌を調べた研究

また学会とは全く関係ないが、カナダの薬物問題をこの目で実際に見たことはショッキングだった。バンクーバーのイーストサイドと呼ばれるエリアは薬物使用者やホームレスがたむろする危険なエリアであり、社会問題となっている。ネットで調べてみてもカナダの薬物問題は深刻らしく、ヘルスケアの観点からバンクーバーの薬物問題を議論したかったが、今回の研修に関係ないのでまた別の機会があればぜひ議論したい。

反省点としては、ワークショップにおいてあまり積極的に話せなかったことである。ナチュラルスピードで話される英語はかろうじて聞き取れても、話すとき何を話すか考えていると議論のスピードについていけないということを身にしみて感じた。

## 研修支援制度に望むこと

僕の場合は出発まであまり期間がない段階で申し込んだので心配だったが、結果的に手続き等はスムーズに運んで安心した。制度として改善するところは特にないと思う。

安全面に関しては事前に保険に申し込むようになっているが、海外では何が起こるかかわからないのでやはり一人で行くのが不安という人もいると思うので、そのあたりの配慮はなかなか難しいと思う。

またこの研修はかなりの短期（二週間程度）の支援制度なので、参加するプログラムによっては短すぎるかもしれない。そこで全額支援とまではいなくても、1、2か月のプログラムにも対応できるようになれば、支援の幅が広がると思う。